

会 議 概 要 書

審議会等の名称	第3回 ながふじ学府一体校建設検討会
担当部課名	教育部教育総務課学府一体校推進室
会議の開催日時	平成29年11月15日(水) 18:00~20:00
会議の開催場所	豊田支所 大会議室
出席者(職・氏名)	委員:15名 事務局等:11名(内設計者3名)
議 題	(1) 議事録の確認 (2) ワークショップ、教員ヒアリングの内容について (3) 第3回建設検討会提出案について (4) 質疑・意見交換
配付資料等の件名	・次第 ・ワークショップ、教員ヒアリングの主な意見 ・第3回建設検討会提出案

【会議概要】

1. 開会

2. 教育長あいさつ

- ・先日、教育委員会の研修会で東京都の豊葉の杜学園(品川区)、有明小中学校(江東区)を視察訪問した。品川区は日本の中でも早い段階で小中一貫校をスタートさせ、現在6校を手掛けている。施設は小中一体で、市民が一年中使える温水プールを併設し、幼稚園が同じ敷地の中にある。東京都の中心にある学校の雰囲気とは少し違い、子どもたちのあいさつや小中学生の繋がりが伝わってきた。
- ・磐田市の小、中学校も良い関わりが出来ている。7年前の学校の雰囲気と現在は変わってきていて、PTA、コミュニティスクール、コーディネーター、自治会の皆様のおかげで学校が運営されている。磐田市が目指そうとしている、人と人との繋がりがより深まる関係が、小中一体校をつくることで出来ていけば良いと思う。
- ・ワークショップ等を通して出た意見を踏まえ、子どもたちの姿が浮かんでくる学校になるよう、いろいろな意見が出てくる中で方向性を定めていければ良いと考えている。

3. 議事録の確認

- ・事前配布済の議事録について修正はあるか。(会長)

➤前回議事録6ページ目、(仮称)こども図書館の利用ターゲットについての記述を「利

用ターゲットを変えたりしていくことも考えている」から「利用ターゲットをより幅広くしていくよう考えている」に訂正のこと。(委員)

4. 経過説明

- ・前回の検討会からグラウンドの配置などを再検討した経緯について第1回、第2回ワークショップ、教員ヒアリングの主な意見と合わせて説明。(以下、事務局)
- ・グラウンドを小中学生が合同で使用する上での安全面について、授業時は教師の管理の下に行う。昼休みにサッカーボールを使用する場合は場所を決めるなど、ルールを徹底することで安全確保できると考える。
- ・グラウンドの南北の長さが約100mあるため、放課後の部活動時、野球やサッカーのボールがながふじ広場まで来るとはならないと考える。よって、ながふじ広場の東面のあたりを放課後の小学生の遊び場としたい。
- ・グラウンドを北側に一体化することで、体育の授業や昼休み等、小中学生が柔軟に使えと考える。
- ・(仮称)ながふじ図書館の管理運営については、通常、市の学校を巡回している学校司書ではなく、別途司書等を常駐させることとして、協議を進めている。

5. 第3回建設検討会提出案について

- ・配布した資料を基に計画案の説明。(以下、設計者)
- ・1階に関しては、ながふじストリートに面して地域開放エリアであるランチルームやホール、(仮称)ながふじ図書館が接することで、より地域の活動が見えるレイアウトとした。
- ・共同調理場からの給食配膳動線に配慮し、エレベーターを調理場近くに配置。
- ・発表の場にもなる、ながふじホールを昇降口のそばに設け、客席にもなる大階段を設えた。
- ・事務室と一体となった職員室や保健室など、管理諸室は主に校舎東側にまとめる事で連携を強化。
- ・特別支援教室は各普通教室エリアに近い方がよいという意見を取り入れ、2階に小学生、4階に中学生の特別支援教室を配置。
- ・南側に普通教室、北側に特別教室を配置する構成はそのままとしたが、各特別教室の配置は今後の検討項目としていきたい。
- ・中央部分には通風・採光に配慮し、多目的に使えるエリアをつくっているが、大きさや活用方法については今後も検討を進めていく。

6. 質疑

- ・テニスコートはグラウンドに2面となっているが、現在は4面あるので同程度必要では。男女のテニス部利用に考慮のこと。(委員)
 - 加茂テニスコートを校舎建設中および開校後も使うことで、4面は確保できるように考えている。(事務局)
 - グラウンド内の配置はあくまで大きさを把握するためのレイアウト例と考えてよいか。(委員)
 - その通りである。(事務局)
- ・ながふじ広場についてもう少し説明して欲しい。(委員)
 - 地域開放エリア出入口の前をながふじ広場とし、遊具エリアとすると共に、地域開放のエントランス前のたまりスペースとしてグラウンドとは異なった設えの広場を設けた。(設計者)
- ・遊具の配置もあった方がより、グラウンド全体をイメージしやすい。(委員)
 - 遊具は北部小にあるものも含めて、どのような遊具が今回必要かといった選定も含め、配置とあわせて検討を進めていく。(事務局)
 - ながふじ広場を含めたグラウンド内の詳細な配置は今後詰めていくこととし、大きな配置に関して、同意が得られれば校舎を含めた骨格が決まってくる。(委員)
 - 設計を進めていく上で、遊具の配置も重要であるため、意見があれば出して頂きたい。どのような遊具があれば良いか、現状と同じような遊具か、もう少し大型のものか、一か所のエリアに集中させて使う遊具もあれば、アスレチックのように回遊して使うものもある。今回学校が新しくなるので、今までとは違った遊具を入れる場合、校庭の周りに配置する可能性もある。(委員)
- ・今の時点では漠然としすぎてイメージが湧かない。(委員)
 - 既存の遊具も含め、レイアウトを検討していく。(事務局)
- ・体育の授業で必要な遊具と遊ぶ遊具の両方が必要であり、両方の観点から考えていくべき。(委員)
 - 低学年のうちに逆さになったり、登ったりといった感覚づくりが必要だと考える。いろいろな遊具があるのでそれも踏まえて考えていく必要がある。例えば、あまりに大きく高い遊具や老朽化した既存の遊具は、現状に合わせて新しいものを入れて欲しい。(委員)
 - 屋上緑化、動物の飼育、鉄棒の設置など屋上の使い方を考えて欲しい。子どもの感性を伸ばすよう屋上についても利用してもらいたい。(委員)
 - グラウンドの機能ははっきりしているが、サブグラウンドやながふじ広場には柔軟性がある。芝生にするのか、通常のグラウンドなのか、交流の場なのか、それぞれ

のエリアの性格によって遊具の配置も変わってくる。ながふじ広場だけに遊具を置く場合は例えばそのエリアのみゴムチップ敷にして遊具を集め、子どもたちが動き回れるように配置することもできる。今はこういった空間をつくるという事を承認してもらい、今後活用方法と絡めて、次の段階で考えていけばよいのではないか。

(委員)

- ・ながふじ広場の大きさはどの程度か。(委員)
 - おおよそ 18m×25m の 470 m²程度としている。(設計者)
- ・遊具の選定は誰が行うのか。静岡県のデータを基に、伸ばしたい身体能力に有効な遊具を置ければいいと思う。(委員)
 - 遊具の選定は学校側の意見を聞いて進めたい。(事務局)
- ・グラウンドを含めた大きな配置についてはこの案をもとに進めてよろしいか。(委員)
 - 一同承認。
- ・中学生の部室棟はあるか。(委員)
 - ある。付属棟は駐輪場含めて大きなレイアウトが決まってから詰めていきたい。(事務局)
- ・校舎内の教室配置についてはどうか。(委員)
- ・アリーナのキャットウォークは観覧席になるのか。(委員)
 - キャットウォークはあくまでメンテナンス用の通路としている。観覧スペースとなる場合、法的な解釈も異なってくる。なお、1m程度であれば面積に算入されない。(設計者)
- ・観覧席のスペースをつくれるのであれば、あった方がよい。(委員)
 - コストが上がるが必要であれば、検討もあり得る。(委員)
 - 一般的に観覧席を設けている小中学校の事例はあまりなく、また観客席を設けた場合、学校用途ではなく、興行場にあたる場合もあるため、調査した上で、回答したい。(設計者)
- ・共同調理場には調理員の更衣室、控室、休憩室等が含まれているのか。(委員)
 - 含まれている。厨房機器は専門性が高いので、調理場エリア内で現在検討中。(事務局)
- ・プール下の駐車場は何台止められるか。(委員)
 - 現状 30 台程度としている。(設計者)
 - 現在、東側の借地に約 80 台止められる駐車場があり、教職員が利用している。プール下の駐車場は調理関係の搬入搬出車、地域利用者、来客用など対外的な駐車場として考えている。保護者が参加する行事などの場合は、散策路を臨時的駐車スペースとして利用する事を考えている。(事務局)

- ・現状、豊田北部小では、休み時間内にトイレを済ませて戻ってこられない児童がいるが、現状どの程度のトイレ数を想定しているか。(委員)
 - 器具数は、衛生工学会の学会基準があり、それを基に計画している。まだ、計画途中ではあるが、3段階ある学会基準のうち、真ん中のグレードとし、それを1フロア2か所に計画している。(設計者)
- ・東西各トイレで器具の数は。(委員)
 - 設置数については現在足りていないようなら増やす事も可能。ただし、あればあったコストにも関わってくるので、それも含めて進めていきたい。(設計者)
 - 休み時間に用をたして戻ってこられるよう、例えば小学校が45分授業で10分休み、中学校が50分授業で10分休みという授業時間の違いを利用し、小学校は中学校と授業開始時刻を合わせて、休み時間を15分とする等も踏まえて考えて欲しい。(委員)
 - 現状の学校の器具数も調査、比較した上で進めていきたい。(設計者)
- ・女性用を多くした方がよいのでは。どこに行っても女性用は混んでいる。(委員)
 - 学会基準はあるが、特に最近女子はトイレブースに籠る傾向があり、それ故混雑している現状がある。それは学校の中で一人になれる場がトイレしかないのも理由の一つであると聞いている。要望とコストを踏まえながら検討したい。(設計者)
 - また小中学生、低学年・高学年、性別でも傾向が異なるため、異なる設えとして計画するのも一案。例えばトイレの中にコミュニケーションスペースをつくる等、どうデザインしていくか考えていくと良いトイレができるのではないかと。(委員)
 - 中央の吹抜は採光や通風のためにどうしても必要か。吹抜とせず、他の用途のスペースにできないか。(委員)
 - 片廊下の場合、廊下は明るい一方で、中廊下型は暗くなりやすいので、そのために吹抜を設け、採光を確保することが多い。また、小中一貫校として全学年が交流できることの重要性を考えて吹抜を設けている。安全性に関しても工夫が必要であると考えている。(設計者)
 - 安全面については手摺を高くする等、技術的にクリアできると考えている。採光やコミュニケーションも踏まえて、必要性については考えていく必要がある。(委員)
 - 手摺を通常より高くすることや、2層以内の吹抜けとするなども踏まえ提案したい。(設計者)
- ・共同調理場の面積は、もう少し小さくなるのか。(委員)
 - 1600食提供の共同調理場は事例として1000㎡程度であり、今回案は960㎡程度。このエリア内に職員の更衣室、休憩室等があるので妥当な大きさだと考える。(設計者)

- ・日本文化の継承も踏まえて、和室があったほうがいいのでは。例えば災害時、妊産婦も利用できるのでは。(委員)
- ・吹抜けスペースをサブ図書館や自主学習スペース、サブ職員室等に活用できないか。小中一体校にする理由の一つに 2020 年の学習指導要領の改訂があり、小中一貫にする意義が、さらにこれから出てくる。対話はもちろん、子ども達が自由にディスカッションできる場所や教室のあり方を考え、先生が毎回 1 階の職員室まで行かずに済むようにできないか。ながふじホールのようなスペースを各階に設けられないか。採光は階段からとれるのではないか。(委員)
 - 教師コーナーがあると良いという意見は教員ヒアリングのなかでも出ている。(委員)
 - 図書館が地域に開放されるので、子どもたちが普段使う本が身近にあるようにミニ図書コーナーやグループ学習ができる場所が必要だと思う。廊下が広がっているので、吹抜け付近のスペースを本棚等で仕切って机やイスを置いたり、教師コーナーにしたり、使い方はいろいろ考えられる。(委員)
 - 階段室を中心に採光を取るという意見があったが、光のあるところに人が向かう習性から階段を中心に吹抜けを設ければ、わかりやすいサインの意味、コミュニケーションの場にもなるという校舎の作り方は良いと思う。(設計者)
 - 無駄に広くない共用スペースを階段や吹抜けとあわせてつくっていくと良い。(委員)
 - 音楽室は防音するという考えでよいか。音は上に抜けるため、最上階の端でなくて大丈夫か。(委員)
 - 特別教室の配置は決定ではない。例えば音響の観点からも天井高が必要になる可能性もあり、また、4 階は中学生の教室もあるので、遮音壁に頼りすぎずに、全体の学習環境づくりも考慮しながらレイアウトしていきたい。(設計者)
 - 特別教室の配置は教員ヒアリングも踏まえて決めていけばいくと良い。(委員)
- ・共同調理場を学校内に入れる必要があるのか。市の方針がセントラルキッチン型に向かっていると思っていたが、給食センター式をやめて行く方向か。(委員)
 - 学府を一つのセントラルとする考え方をしている。豊田にある調理場の老朽化があり、学府ごとのセントラル化をしていけば、災害時にも使えるし、そこだけのコンパクト化ができるため、今回の学校をながふじ学府エリアの中心とし幼小中の食を提供していく考えである。(事務局)
 - 一体校を契機にした今回の考え方が 1 つの事例となる。それを検証しながら磐田市全体の給食のあり方を検討していく。(委員)
- ・駐車場からの動線、児童の動線、災害時の指定避難場所になった場合やアリーナでの

イベント時の使い勝手など、人の流れについて説明して欲しい。(委員)

➤ 駐車場右の 印は出入口として出入り可能。教材園前を敷地内通路として確保し、ながふじストリートも 6m を確保することで、敷地内で行き来ができるように計画している。(事務局)

・ 駐車場横の出入口から校舎に入れるとなるとセキュリティ上問題がないか。(委員)

➤ セキュリティも踏まえて運用を考えていく。(事務局)

・ 災害時の避難場所として色々な場所から入れないといけなく、通常利用時も含めてルールを決めて欲しい。(委員)

・ 地域開放エリアに地域連携室があるが、そこが地域連携の窓口になるのか。駐車場については地域開放と来客のすみ分けができていないように感じる。例えば東側の別敷地の駐車場を来客・地域の方に、プール下の駐車場を教職員としたほうが、セキュリティ面も考慮した明確な動線とならないか。教材園前の出入口を教職員出入口としてはどうか。(委員)

➤ 東側の駐車場と入れ替えての運用はセキュリティを含め検討していく必要がある。(委員)

・ 前回案と比べ、一番の特色である(仮称)ながふじ図書館の配置に手を加えたがどうか。(委員)

・ ランチルームの活用についてであるが、地域連携室は地域開放時の関所という考え方もあるが、ランチルームの活用を考えた時に整形なスペースの方が使い勝手がよい為、地域連携室を移動できないか。(委員)

・ 地域連携室を図書館エリア付近に移動し、地域開放の関所として、(仮称)ながふじ図書館の運営も含めてはどうか。ワークショップで子どもに有害な図書は置かないと思うが、地域の方が閲覧するスペースもワークショップの意見を踏まえた上で考えて欲しい。(委員)

➤ 地域連携室と司書室をまとめたゾーニングとして、ホールにそのようなスペースを設けることも 1 案としてある。(委員)

・ (仮称)こども図書館は、今までの利用者も一緒に使っていいのか。(委員)

➤ (仮称)こども図書館はあくまで仮称であり、大人用の蔵書も 2 万冊予定。子育て相談機能と図書館機能を併せ持った新たなコンセプトの施設としてのリニューアルを考えている。ニーズも踏まえて仮称こども図書館と連携して考えていきたい。(委員)

➤ 子育て支援のイメージが強いが、そうではないのか。(委員)

・ そもそも図書館を地域開放する必要があるのか。地域に図書館が多数あり、交流センターもあるのに、敷地が狭くセキュリティの問題もある学校がその役割を担う必要が

あるのか。限られたスペースで小、中学生のための多種多様な本を揃えなければならぬのに、大人の本まで揃える必要があるのか。子どもの利用を狭めてまでやる必要はないのではないか。(委員)

➤ 学府一体校の基本構想の中で決められたことだと認識している。(委員)

➤ それは理解するが、必要性を感じない。何故、学校がそれを担う必要があるのか。(委員)

➤ 交流センターにはそもそも子どもが来ないので、子どもから大人までの交流はできていないのが現状であり、地域と子どもの交流を深めるために今回つくるのではないかと。(委員)

➤ 地域住民とのつながりの一つとして、新たな形として学校がつくられれば良いのではないかと。(委員)

➤ 豊田図書館はこども図書館という名称ではなくなり、子ども、大人両方の本を置くようになり、子育て相談機能が入ってくる。(仮称)ながふじ図書館に関しては、地域の方との交流がより深まる場と考えている。学校の図書館に地域の人が入ってくるのではなく、学校に市が中心となって運営する図書館が入るという考え方もできる。市の図書館として専門家も付き、小、中学生の図書の面倒もみてもらえるという考えである。(教育長)

➤ 学校としてのメリットを考えていく必要がある。例えば、専門の司書が常駐して、子どもたちの支援をしてくれる。図書館への経済的、人的支援も学校のメリットとなる。どこまで連携していけるかは運用次第。図書の選定については議論があると考えられる。(委員)

・ 地域の方が学校に入ることによって学校が活性化し、色々な形の授業に展開され、関係性が深まる。(委員)

・ 図書の選定は学校優先でして欲しい。大人向けの図書は地域連携室の中に置くなどの配慮があれば良いと思う。ランチルームの名称は使用目的に合っていないので、多目的な利用を想定して、今後話し合っていきたい。(委員)

・ 地域とともにある学校ということで磐田市では進めているが、あくまでも子どもたちの教育のためである。(仮称)ながふじ図書館が子どもたちの社会性を育むための地域とのコミュニケーションの場として機能し、地域の方が子どもたちをみんなで支え、地域の方と交流することでコミュニケーション能力を育てていく場になればよいと思う。(委員)

・ 地域の方との交流のきっかけ、ボランティア活動のきっかけ、地域の方の居場所、接点となる場所、地域の方が学校教育と係わる場所になればいい。図書館は気軽に足を運べる場所なのでそれを活かして運用していく必要がある。(委員)

- ・地域では大人が拠点であるが、図書館だったら学校が拠点になるので生徒が主役になれる。(仮称)ながふじ図書館がボランティア活動の拠点になり、子どもたちが自発的に行動し、大人がサポートできる場になっていければと思う。(委員)
- ・例えばランチルームを常にオープンにし、ランチルームにも使え、子どもたちや地域の方も使えるようなフリーな場所にして、図書館とうまく連携していけると良い。(委員)
- ・図書館やランチルームの開放の度合いについては、今後検討を進めて欲しい。(委員)

7. 閉会のあいさつ

- ・ワークショップや検討会を重ねてより良くなってきている。他の自治体の学校では、このような検討会を行っていないところもある。ながふじ学府の一体校は、皆さんから意見をいただきながら、地域と共にある学校としてスタートしていきたい。